

## 特集 3

## 奨学金返済や教育費の負担軽減を求めて

いけだ けいすけ  
池田 圭佑 ●労働者福祉中央協議会・部長

労働者福祉中央協議会（略称：中央労福協）では、2015年度より多重債務や貧困問題の延長線上の課題として奨学金問題を位置づけ、①有利子から無利子へ、貸与から給付へ、②無理のない返済制度への改善と負担軽減、③学費を含めた教育費の負担軽減を目指し、様々な団体や関係者と連携し、世論喚起や政策・制度の改善に向け取り組んできました。

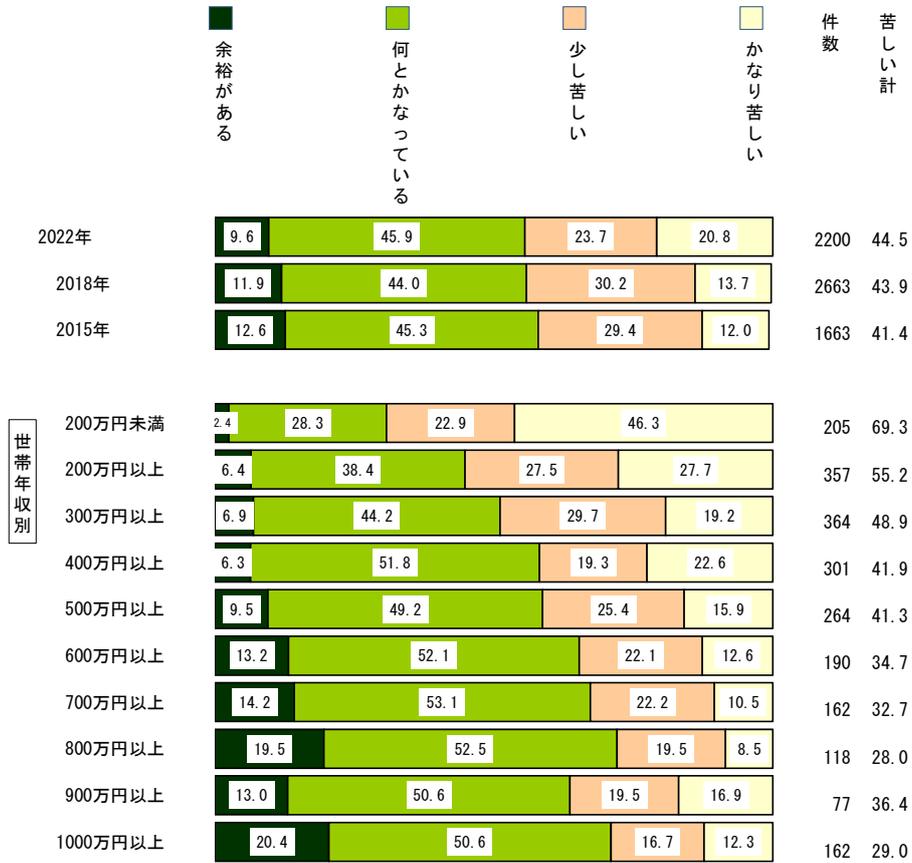
その結果、2017年には給付型奨学金制度が創設され、2020年には大学等修学支援制度が導入されましたが、その対象者がこれから大学等で学ぶ低所得世帯の学生に限定されており、さらなる制度の改善が求められます。

中央労福協では、労働調査協議会のご協力のもと「奨学金や教育費負担に関するアンケート調査」を2015年、2018年と実施しており、2022年9月に4年ぶりとなる調査（以降、2022年調査）を実施しましたので、調査結果のポイントをご紹介します。

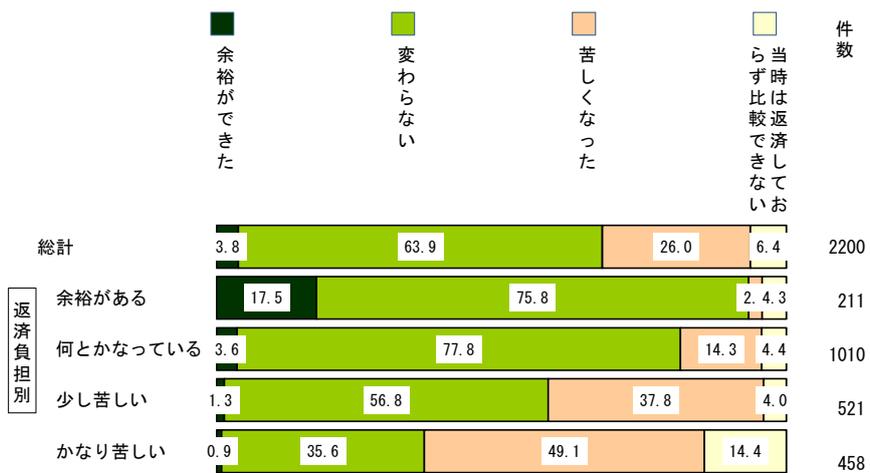
### コロナ禍は生活が もともと苦しかった方を 更に苦しめることに

アンケート調査では、2015年調査から継続して奨学金返済の苦しさについて聞いており、「少し苦しい」「かなり苦しい」の＜苦しい＞の割合は毎回40%台で推移していますが、2022年は「かなり苦しい」（20.8%）の比率が高まっています。また、コロナ前と比べた返済状況では「変わらない」が6割強と多いものの、「苦しくなった」が26.0%と4人に1人みられ、コロナによる影響も一定程度確認できます。この結果から、コロナ禍は生活がもともと苦しかった方を更に苦しめることになったことが予想されます。

### 返済の負担感



### 返済負担感別のコロナ前と比べた返済状況

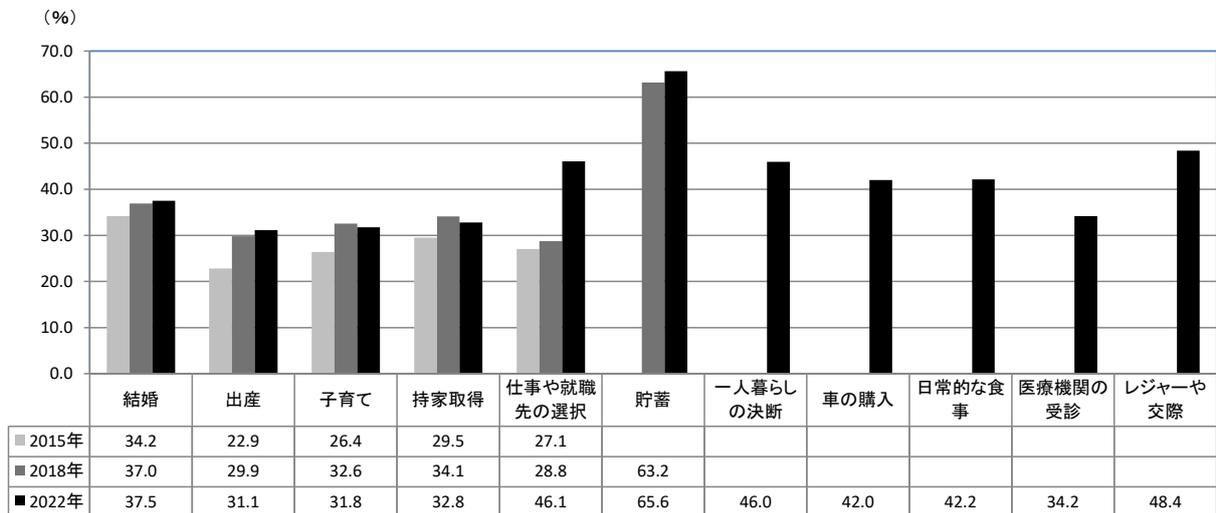


## 返済負担は“日頃の食事”や “医療受診”など日常生活にまで

生活設計に関する奨学金返済の影響では、結婚や出産といったライフイベントにおいては、[結婚]で<影響している>が4割弱、[出産]と[子育て]、[持家取得]は3割強など、これまでの調査と大きく変わらない結果が確認されています。

また、2022年調査では、日常的な生活に関する項目も追加し、<影響している>の比率は[レジャーや交際]で5割弱、[日常的な食事]で4割強、[医療機関の受診]も3割強を占めています。これらの結果、奨学金の返済の影響は生活の基本的な要素にすら及んでいることが明らかとなりました。さらに、この傾向は借入額が大きい人ほど強まることになります。

奨学金返済による生活設計への影響



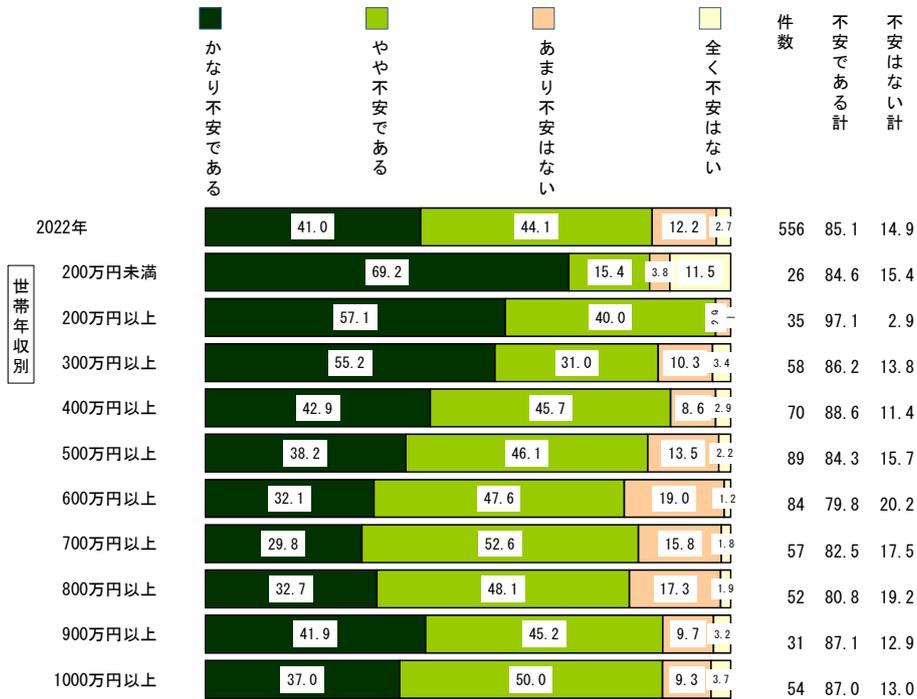
## 教育費の将来にも 不安を感じる人が多数。 収入の低い層ほど強い不安感

教育費の将来に対しては「不安である」という人が8割台半ばに及び、世帯収入の低い層ほど不安感は強くなっています。物価が急激に高騰し賃上げが進まない社会情勢と相まって、子育て世帯は更に厳しい状況にあることが浮き彫りになっています。

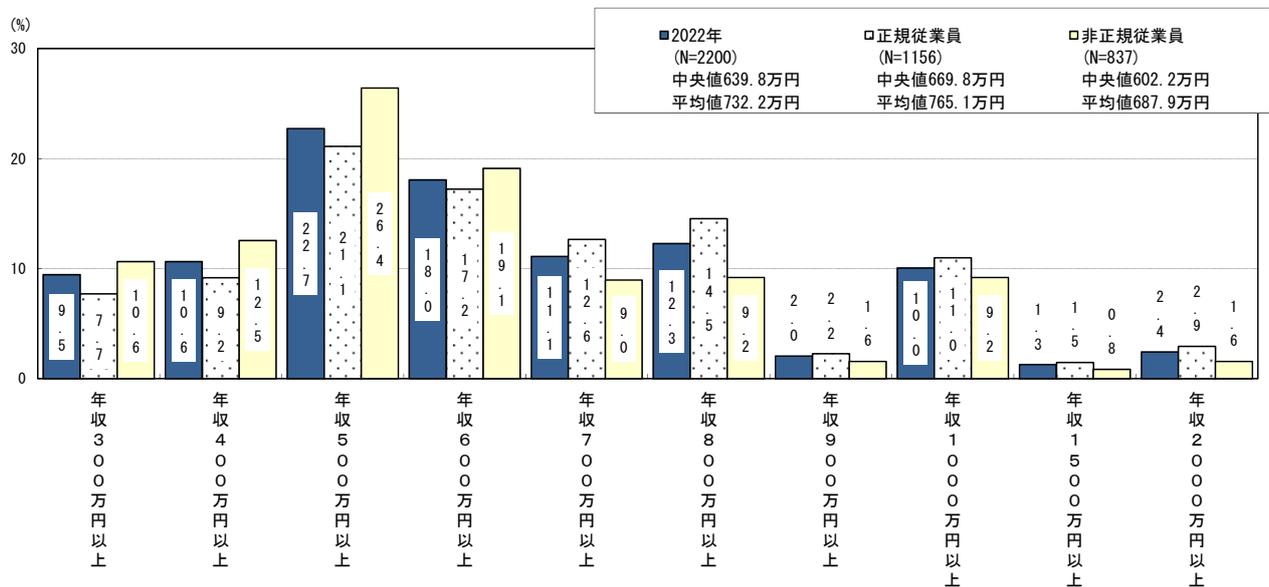
## 出世払い型奨学金は 国民が納得できる返済水準を

政府の方針として、出世払い型奨学金の検討が進んでいます。2022年調査で出世ということに対する認識をたずねてみたところ、出世したと思える金額は人によるばらつきはあるものの、平均で732万円に達し、雇用形態によらずいずれも平均650万円を超える結果となりました。単に後払い方式というのではなく、“出世払い”というのであれば、返済水準を国民が納得できる水準に設定する必要があります。

### 将来の教育費負担への不安度（子どものいる人）



### 出世したと思える年収水準金額（分布）



## 奨学金返済負担軽減のための税制支援の実現を！保護者の教育費負担軽減のための減税を！

大学等修学支援法案が成立した際の国会の附帯決議において、「独立行政法人日本学生支援機構が行っている貸与型奨学金について、・・・返還負担軽減のための税制など、返還困難者の救済制度の在り方の検討に努めること」（参議院文科学委員会 2019年5月9日）が全会一致で決議されています。国会の意思でもあることから、その速やかな実現を求めます。

コロナ禍による家計収入の減少は、低所得者層だけでなく、中間層にとっても大きな経済的ダメージとなっています。保護者の教育費負担の増大はコロナ禍の長期化によってさらに拍車がかかることが想定されます。教育費負担軽減のための政策減税を行うことは、コロナ禍からの経済回復策としても政策効果が高くなります。

このため、教育費税額控除を新設し、大学、専門学校等に通う扶養者がいる場合、所得制限、年齢制限を設けずに適用することを求めます。

## 奨学金・教育費の負担について ～あなたの想いを 聞かせてください～

中央労福協ウェブサイト「あなたの想いを聞かせてください」には、年収の壁によりこれらの制度の支援を受けられない人やすでに奨学金を返済している人から多くの「不満」や「不公平感」の声が寄せられています。当事者の方々の声を受けて、奨学金返済者や保護者の教育費の負担を軽減する税制支援（減税）の実現をめざします。

将来的な高等教育の漸進的無償化や無理のない奨学金返済制度への改善につなげていくためにも、少しでも不公平感をなくし、みんなが負担軽減を実感できる政策支援が喫緊の課題です。現状を打開する一歩として、私たちのアクションにご参加ください。

「教育費や奨学金返済の負担を軽減する税制支援」についてあなたの想いを聞かせてください！

投稿はコチラから⇒

